

安心できる医療を目指して

神経・
筋疾患

重症
心身障害

脳血管
疾患

呼吸器
疾患



独立行政法人 国立病院機構

奈良医療センター

病院理念

私たちは質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院づくりを目指します

- ❁ 正確な情報に基づいて、十分な説明を行い納得していただける医療の提供に努めます。
- ❁ 安心して、受けていただける医療の安全対策の推進に努めます。
- ❁ 患者様の視点に立って常に改革して医療サービスの提供に努めます。

基本方針

神経・筋疾患、脳疾患、重症心身障害、呼吸器を主たる機能とした「面倒見のいい病院」の機能を高める

- ❁ 当院は、政策医療（結核医療、重症心身障害者医療、筋ジストロフィー等の神経・筋難病）の要として奈良県の医療に貢献してきましたが、これからも、余人に代えがたい政策医療の担い手として地域医療に貢献します。
- ❁ 地域の医療・介護事業所と連携し、「在宅への復帰支援と在宅からの受け入れ」、「QOL（生活の質）・自己決定の支援・尊重」を行うことで地域包括ケアシステムを支える。
- ❁ 災害時にも、業務の継続が可能な体制の構築。特に医療的ケアの必要な在宅患者の受け入れでは中心的役割を果たす。
- ❁ 健全な経営で、安定した医療を提供するため、経営の効率化に努める。
- ❁ 職場環境を整備し、働きやすい環境をつくり、常に職員の笑顔がたえない病院にする。

ご挨拶

地域医療を支え、
安心できる
医療をめざして

国立病院機構 奈良医療センター
院長 永田 清



昭和25年に結核の療養所として開設された当院は、平成16年4月に国立病院から独立行政法人国立病院機構の病院として新たなスタートを切りました。当初からの診療路線を引き継いだ結核、神経難病、重症心身症などセーフティーネット系医療に加え、呼吸器内科、てんかん、機能脳神経外科、発達障害（小児神経科）など専門性の高い医療分野にも取り組んでいます。

近年では地域の開業医・医療機関からの紹介に加え、近接の奈良県総合医療センターとの連携を強化し、同センターからの急性期患者の下方搬送・転院を積極的に受け入れています。このように、北和地域の救急医療の受け皿となることで、地域医療に貢献していきます。

COVID-19のような感染症に対する備えや、難病患者や障がい児・者等への災害時の医療提供においても行政や関係施設と協力して準備を進めています。これからも、地域のご要望に耳を傾け、安心できる医療を提供できるように、全ての職員が一丸となって努力してまいります。

● 病床数

医療法承認病床数337床、一般病床174床、結核病床27床、筋ジス病床36床、重症心身障害者病床100床

● 指定医療機関一覧

- 救急告示医療機関 ● 労災保険指定医療機関
- 指定自立支援医療機関
 - ・更生医療 ・育成医療 ・精神通院医療
- 身体障害者福祉法指定医の配置 ● 生活保護法指定医療機関 ● 結核指定医療機関
- 指定養育医療機関 ● 戦傷病者特別援護法指定医療機関 ● 原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関
- 特定疾患治療研究事業委託医療機関 ● 小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関

標榜診療科

内科・心療内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・リウマチ科・小児科・小児神経科・精神科・脳神経内科・外科・整形外科・脳神経外科・呼吸器外科・皮膚科・泌尿器科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・ペインクリニック外科・睡眠障害内科



Topics

特殊専門医療分野の ご紹介

呼吸器・アレルギー疾患に対して質の高い診療を行う

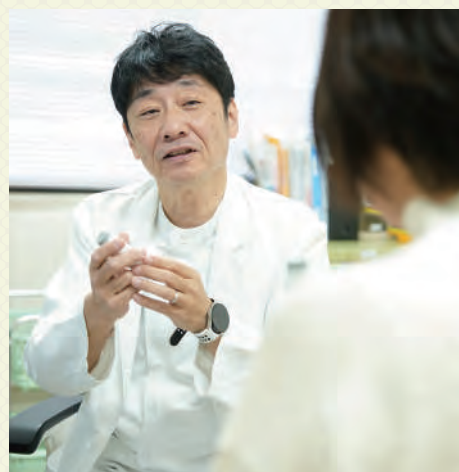
呼吸器センター (内科・呼吸器科)

呼吸器疾患・アレルギー疾患を中心に質の高い医療を提供することを基本方針としています。

結核をはじめとする呼吸器感染症に対して、積極的に診断および治療を行っています。近年増加が著しい非結核性抗酸菌症（肺MAC症）の経験も豊富で、難治例に対して吸入療法を多くの患者さんに導入しています。

慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの慢性呼吸器疾患に対して、多職種による包括的呼吸リハビリテーションに取り組んでいます。また睡眠時無呼吸症候群（SAS）を中心とした睡眠呼吸障害の診療を専門的に行っています。

当院は奈良県アレルギー疾患診療科別支援病院に指定されており、重症喘息などに対する生物学的製剤の導入を積極的に行っています。お困りの症例がございましたら、是非ご紹介下さい。



吸入指導も丁寧に行っています

脳神経、筋肉の難病を専門的に診療

神経・筋難病センター (脳神経内科)



療養介護利用者の日中活動の様子

脳神経内科は、パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経難病、および筋ジストロフィーなどの筋難病を専門的に診療しています。神経・筋難病の中で、日常診療でも遭遇する可能性が高いのは、パーキンソン病とされます。パーキンソン病は、人口の高齢化に伴い世界的にも患者数が増加しています。小刻みに歩くようになった、動作が全体的に遅くなった、（手に力を入れていないのに）手が震える、などの症状がある場合、パーキンソン病の可能性がります。当院では、診断が確定した後、内服薬による治療を脳神経内科が、外科手術（脳深部刺激療法等）の適応がある場合には脳神経外科が担っています。

もしお困りの症例がございましたら、地域医療連携室にご相談いただければと思います。

多職種が専門的な関わりを持ち、患者さんにご家族の生活を支える

重症心身障害センター

(小児神経科・外科・内科・脳神経内科・脳神経外科)

重症心身障害医療とは、知的障害と身体障害が重複する患者さんに対して行われる医療福祉支援です。

呼吸障害・てんかん・筋緊張や姿勢の異常・摂食嚥下障害など多様な合併症を抱えておられることが多いため、専門的な医療管理とリハビリテーション、看護、療育が一体的に提供されます。

外来定期通院・体調不良時の一般入院による医療支援のみではなく、生活支援や家族支援も重視され、短期入所・長期入所・通所事業・居宅訪問支援事業等も行っています。

重症心身障害の患者さん・ご家族の豊かな人生のために、当院が寄り添える存在でありたいと思っています。



「てんかん」の専門的診断・治療から教育・啓発活動までを行う診療拠点

てんかんセンター

(脳神経外科・脳神経内科・小児神経科)

てんかんセンターは2010年に設立され、各都道府県で一施設のみ指定されるてんかん診療拠点施設として、てんかんの専門的診断/治療のみならず、相談窓口の開設、管内の医療機関/学校等関係機関への助言・指導・研修、地域住民への啓発活動などを行っています。てんかん専門医が計8名（常勤3非常勤5）在籍し、平日の毎日、小児/成人てんかん専門外来を開設しており、紹介患者が年間約230例、長時間ビデオ脳波同時記録検査は年間約110例、院外の専門医を含めた多職種てんかんカンファレンスを毎月開催、また2024年からは本格的にてんかん外科治療を開始しており、それぞれの患者さんに最適な治療を提供できる体制を構築しています。



パーキンソン病などの不随意運動の薬物治療から外科手術、リハビリテーションまでを行う

機能的脳神経外科・不随意運動疾患センター

(脳神経外科・脳神経内科)

脳神経外科では、機能的脳神経外科領域の診療を行っています。パーキンソン病、ふるえ（本態性振戦など）、ジストニア（書痙、痙性斜頸など）、痙縮などの不随意運動、運動異常を対象としています。脳神経内科と連携して、薬物治療など保存的治療でコントロール困難な場合に手術治療を行っており、定位脳手術による、脳深部刺激療法（deep brain stimulation: DBS）、視床凝固術や、パクロフェン髄腔内投与療法（intrathecal baclofen: ITB）などを行っています。

術後は、リハビリテーション治療なども行いさらなる機能回復、ADL向上に努めています。



特殊外来のご紹介

特定の疾患や症状に特化した診療を提供する、専門性の高い特殊専門外来をご紹介します。

睡眠障害内科 睡眠時無呼吸症候群などの検査・診断・治療

睡眠外来は、内科医師、小児神経科医師により成人と小児の睡眠時無呼吸症候群、睡眠時随伴症や過眠症の診断・治療をしています。

睡眠時無呼吸症候群や睡眠時随伴症が疑われた場合は、入院での夜間の睡眠検査を行います。過眠症が疑われた場合は、夜間の睡眠状態を確認した上、日中の眠気の検査を行います。治療は個々の患者さんに応じて持続陽圧呼吸療法（CPAP）や、歯科でのマウスピース作成、耳鼻科での手術、精神科と連携して行っています。お困りの際はご紹介ください。



ペインクリニック外科 各種ブロックやヘルニアに対する侵襲手術

ペインクリニック外科は痛みの治療を専門とする診療科です



外来には三叉神経痛（片側のこめかみ、頬、鼻翼、奥歯や顎などへの電撃様の痛み）、頸椎症性神経根症、頸椎椎間板ヘルニアからの頸・肩・腕・腋から肩甲骨周辺にかけての痛み、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症などからの腰や臀部から足にかけての痛み、帯状疱疹からの神経痛などの方が多くみえられますが、他にも四肢の末梢循環障害、脊柱管狭窄症からの手足の冷え・痛み、胸腹部・腰部・四肢手術後の遷延する痛み、癌による内臓痛や体幹四肢の体性痛なども治療対象としています。

外来治療としては、レントゲン透視下の神経ブロック（痛みの原因となる神経周囲に薬剤を注射）が特色で、通常の神経ブロックでは効果不十分な場合、高周波熱凝固術、高周波パルス療法なども併用します。また入院治療としては頸椎、腰椎椎間板ヘルニアに対する低侵襲手術（経皮的髄核摘出術）や三叉神経痛への神経破壊術（高周波熱凝固術など）難治性疼痛に対する脊髄刺激療法などを行っています。

痛みで困っておられる方は主治医と相談のうえ、お越しください。

耳鼻いんこう科 摂食嚥下障害に対する嚥下造影や嚥下内視鏡検査

摂食・嚥下障害に対して、言語聴覚士(ST)、認定看護師とともにチーム診療を行っています。ムセ症状、誤嚥性肺炎、絶食中からの経口摂取再開時など、問診、嚥下スコア、嚥下造影検査（VF）、嚥下内視鏡検査（VE）による評価、VEでは昼食時中の評価も可能です。評価結果をもとに、経口摂取再開のサポート、安全な食事形態のアドバイスなど、また経口摂取が困難と判断された場合には、胃瘻増設や嚥下機能改善術、誤嚥防止術などの外科的対応も行っています。



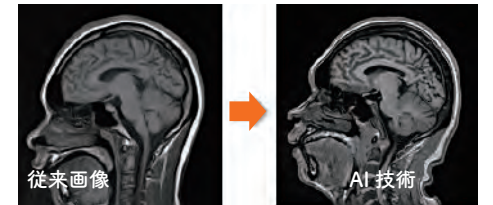
Pick up 放射線科

安心して受けられる、やさしい画像検査をめざして



AI技術（Deep Learning 再構成）搭載の CT/MRI

放射線科では、一般撮影をはじめ、80列CT・1.5T MRI・マンモグラフィー・骨密度測定・多目的透視装置まで幅広く整え、地域の皆さまの多様な検査に対応しています。CT・MRIにはAI技術（Deep Learning 再構成）を搭載し、被ばくの低減と検査時間の短縮を図りながら、より高精度で高画質な画像を実現しています。また、当科スタッフは国立病院間の人事異動で経験を重ねており、予約は比較的取りやすい環境でありながら、急性期大病院と同等の“国立病院クオリティー”の検査精度を提供できることが強みです。画像診断は奈良県立医科大学とネットワークで連携し、大学病院の専門医が読影を担当しています。さらに、神経難病の患者さんが使用するDBS・脊髄刺激療法（SCS）などの神経刺激装置を埋め込まれた方のMRI撮像にも積極的に取り組み、神経難病の患者さんにも安心して検査を受けていただける環境づくりを大切にしています。



チーム医療

多職種の代表者とチームを組み、それぞれの役割を活かし、協働して活動しています。

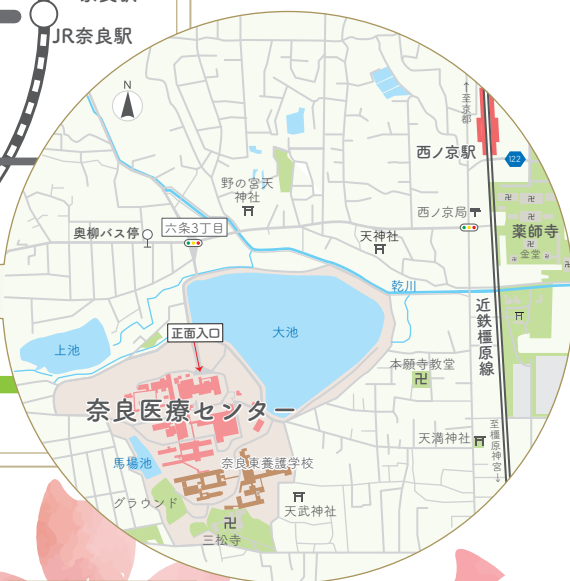


主な認定施設等

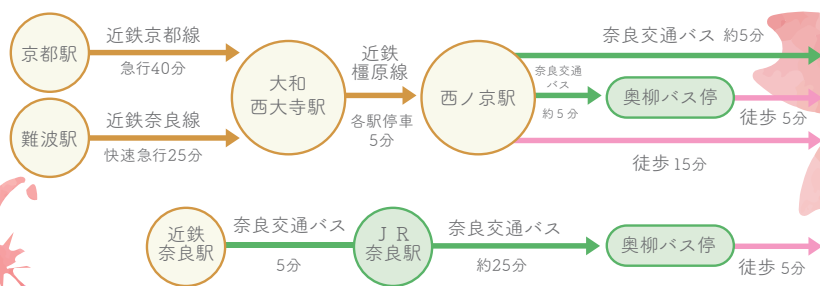
日本医療機能評価機構 主たる機能：慢性期、病院副機能：一般病院 2

- 奈良県てんかん診療拠点機関
- 奈良県アレルギー疾患診療科別支援病院
- 奈良県難病診療専門支援病院
- 日本定位・機能神経外科学会技術認定制度による技術認定施設
- 日本てんかん学会認定研修施設
- 日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設
- 新専門医制度 内科専門研修連携施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度規則による関連認定施設
- 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
- 日本禁煙学会認定教育施設
- 日本神経学会専門医制度における准教育施設
- 老年科専門研修施設
- 日本臨床神経生理学会認定施設
- 日本小児神経学会小児神経専門医制度における研修施設
- 日本睡眠学会専門医療機関
- 日本整形外科学会専門医制度における研修施設
- 日本病院総合診療医学会認定施設
- NCD 施設会員登録（外科領域）

ACCESS



公共交通機関のご案内



お車でのアクセス

〈大阪方面から〉

- 第二阪奈有料道路中町ランプ下り出口右折、大和田橋東詰交差点を左折、六条3丁目交差点を南進（有料道路を利用される場合）
- 阪奈道路三碓ICを南進、県道枚方大和郡山線大和田橋東詰交差点を左折、六条3丁目交差点を南進

〈国道24号方面から〉

- 柏木町交差点を西進、県道大和郡山斑鳩線薬師寺東交差点を北進、唐招提寺入り口交差点から近鉄西ノ京駅前を通り六条3丁目交差点を南進

〈国道25号方面から〉

- 国道25号今国府町交差点を北進、大和中央道から県道枚方大和郡山線大和田橋東詰交差点西側交差点を右折、六条3丁目交差点を南進



独立行政法人 国立病院機構

奈良医療センター

〒630-8053 奈良県奈良市七条二丁目789番地

TEL.0742-45-4591（代表）

FAX.0742-48-3512

地域医療連携室

TEL.0742-45-1563

<https://nara.hosp.go.jp/>



病院ウェブサイト

